

大和郡山市 子ども・子育て支援新制度における
ニーズ調査

【結果報告書 クロス分析】

平成 26 年3月

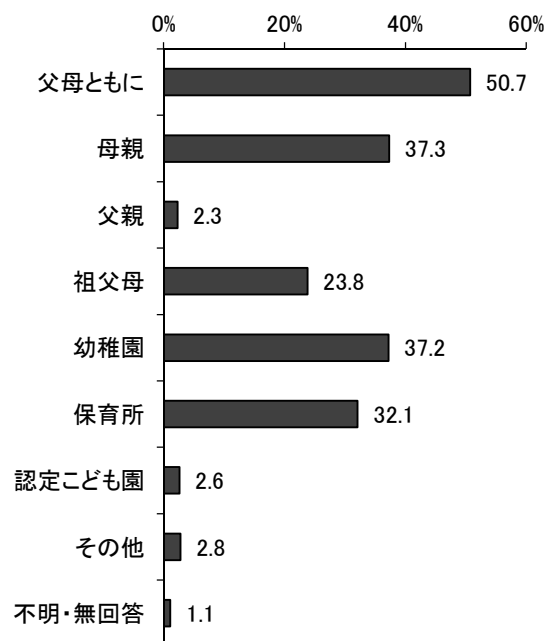
大和郡山市

(1) 子育てに日常的に関わっている方(施設)〈複数回答〉

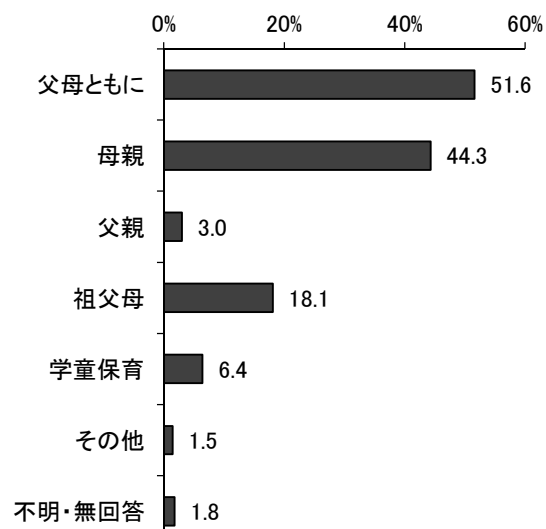
〔就学前児童調査・小学生児童調査…問7〕

子育てに日常的に関わっている方(施設)についてみると、「父母ともに」が就学前児童で50.7%、小学生児童で51.6%と最も高くなっています。次いで、「母親」が就学前児童で37.3%、小学生児童が44.3%となっています。

就学前児童(N=702)



小学生児童(N=740)



年齢別 × 子育てに日常的に関わっている方（施設）

就学前児童について年齢別にみると、[0歳]～[5歳]では「父母ともに」もしくは「母親」が最も高くなっており、[4歳]では「幼稚園」も同様に最も高くなっています。

小学生児童について年齢別にみると、[1年生][5年生][6年生]では「父母ともに」が、[2年生]～[4年生]では「母親」が最も高くなっています。

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳以上	
	N=18		N=53		N=56		N=83		N=112		N=187		N=185	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	9	50.0	20	37.7	22	39.3	43	51.8	62	55.4	109	58.3	90	48.6
母親	9	50.0	28	52.8	31	55.4	31	37.3	34	30.4	60	32.1	68	36.8
父親	1	5.6	0	0.0	2	3.6	1	1.2	1	0.9	5	2.7	6	3.2
祖父母	3	16.7	13	24.5	14	25.0	20	24.1	27	24.1	51	27.3	37	20.0
幼稚園	0	0.0	0	0.0	1	1.8	5	6.0	62	55.4	100	53.5	93	50.3
保育所	1	5.6	10	18.9	18	32.1	31	37.3	40	35.7	58	31.0	65	35.1
認定こども園	0	0.0	2	3.8	0	0.0	4	4.8	4	3.6	7	3.7	1	0.5
その他	0	0.0	2	3.8	2	3.6	4	4.8	6	5.4	3	1.6	3	1.6
不明・無回答	0	0.0	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5

【小学生児童】 年齢別	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	N=21		N=44		N=74		N=106		N=161		N=307	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	14	66.7	20	45.5	35	47.3	51	48.1	84	52.2	169	55.0
母親	7	33.3	23	52.3	37	50.0	56	52.8	73	45.3	127	41.4
父親	1	4.8	4	9.1	2	2.7	4	3.8	4	2.5	7	2.3
祖父母	7	33.3	8	18.2	11	14.9	17	16.0	28	17.4	61	19.9
学童保育	3	14.3	5	11.4	12	16.2	8	7.5	9	5.6	10	3.3
その他	0	0.0	2	4.5	1	1.4	0	0.0	3	1.9	5	1.6
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

家庭類型別 × 子育てに日常的に関わっている方（施設）

就学前児童について家庭類型別にみると、[フルタイム×フルタイム][フルタイム×パートタイム（長時間）]では「保育所」が、[専業主婦（夫）]では「幼稚園」が最も高く、定期的な教育・保育事業の利用状況が結果に表れています。

小学生児童について家庭類型別にみると、すべての家庭類型で「父母ともに」もしくは「母親」が最も高くなっており、就学によって子育ての主は家庭に移っていることがうかがえます。

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=35		フルタイム×フルタイム N=140		（パートタイム）長時間 N=83		（パートタイム）短時間 N=35		専業主婦（夫） N=279		（パートタイム）パートタイム N=3		無業×無業 N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	5	14.3	88	62.9	45	54.2	23	65.7	138	49.5	2	66.7	1	50.0
母親	21	60.0	24	17.1	28	33.7	10	28.6	129	46.2	1	33.3	1	50.0
父親	1	2.9	3	2.1	4	4.8	1	2.9	4	1.4	0	0.0	0	0.0
祖父母	15	42.9	36	25.7	25	30.1	9	25.7	55	19.7	0	0.0	1	50.0
幼稚園	6	17.1	7	5.0	7	8.4	22	62.9	157	56.3	1	33.3	1	50.0
保育所	19	54.3	103	73.6	60	72.3	2	5.7	13	4.7	2	66.7	1	50.0
認定こども園	1	2.9	5	3.6	7	8.4	0	0.0	4	1.4	0	0.0	0	0.0
その他	1	2.9	6	4.3	3	3.6	0	0.0	6	2.2	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0

【小学生児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=49		フルタイム×フルタイム N=34		（パートタイム）長時間 N=13		（パートタイム）短時間 N=54		専業主婦（夫） N=55		（パートタイム）パートタイム N=1	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	3	6.1	22	64.7	6	46.2	31	57.4	25	45.5	1	100.0
母親	37	75.5	10	29.4	7	53.8	24	44.4	30	54.5	0	0.0
父親	4	8.2	1	2.9	2	15.4	1	1.9	1	1.8	0	0.0
祖父母	22	44.9	8	23.5	4	30.8	9	16.7	3	5.5	0	0.0
学童保育	2	4.1	14	41.2	2	15.4	7	13.0	0	0.0	0	0.0
その他	3	6.1	1	2.9	0	0.0	1	1.9	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

※就学前調査では「パートタイム×パートタイム（短時間）」、小学生調査では「パートタイム×パートタイム（長時間）」「無業×無業」の回答がありませんでした。（これ以降の家族類型別集計も同様です）

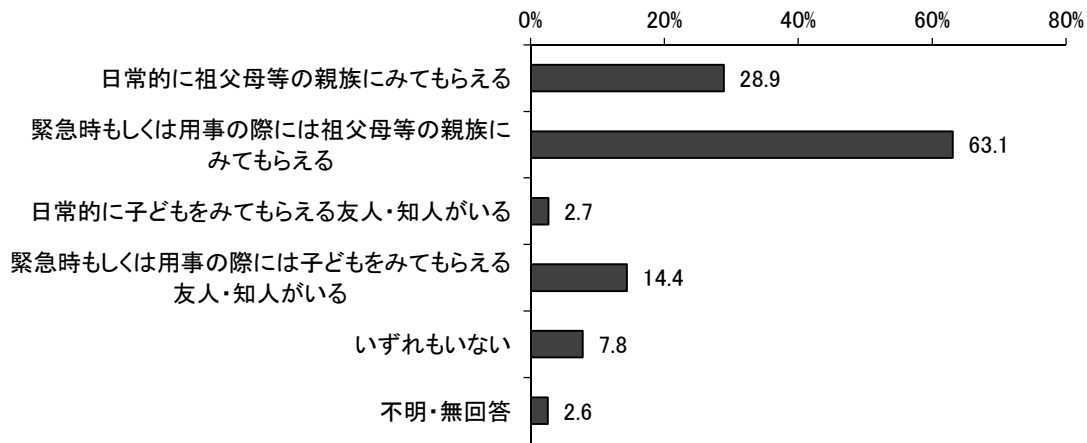
※分析について、就学前調査の「パートタイム×パートタイム（長時間）」「無業×無業」、小学生調査の「パートタイム×パートタイム（短時間）」は回答件数が少ないため、分析では触れないこととします。（これ以降の家族類型別集計も同様です）

(2) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9〕

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が63.1%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が28.9%となっています。

就学前児童(N=702)



家庭類型別 × 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

家庭類型別にみると、〔ひとり親家庭〕以外のすべての家庭類型では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高く、全体と同様の傾向となっています。一方、〔ひとり親家庭〕では、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高く、親族に預ける機会が多いことがうかがえます。

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=35		フルタイム N=140		（パートタイム） N=83		（パートタイム） N=35		専業主婦（夫） N=279		（パートタイム） N=3		無業×無業 N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	20	57.1	33	23.6	23	27.7	15	42.9	75	26.9	0	0.0	1
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	11	31.4	93	66.4	56	67.5	20	57.1	180	64.5	3	100.0	1	50.0
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	0	0.0	0	0.0	1	1.2	1	2.9	12	4.3	0	0.0	0	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	5	14.3	7	5.0	10	12.0	7	20.0	53	19.0	1	33.3	0	0.0
いずれもない	5	14.3	13	9.3	6	7.2	3	8.6	20	7.2	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	2	5.7	5	3.6	2	2.4	0	0.0	5	1.8	0	0.0	0	0.0

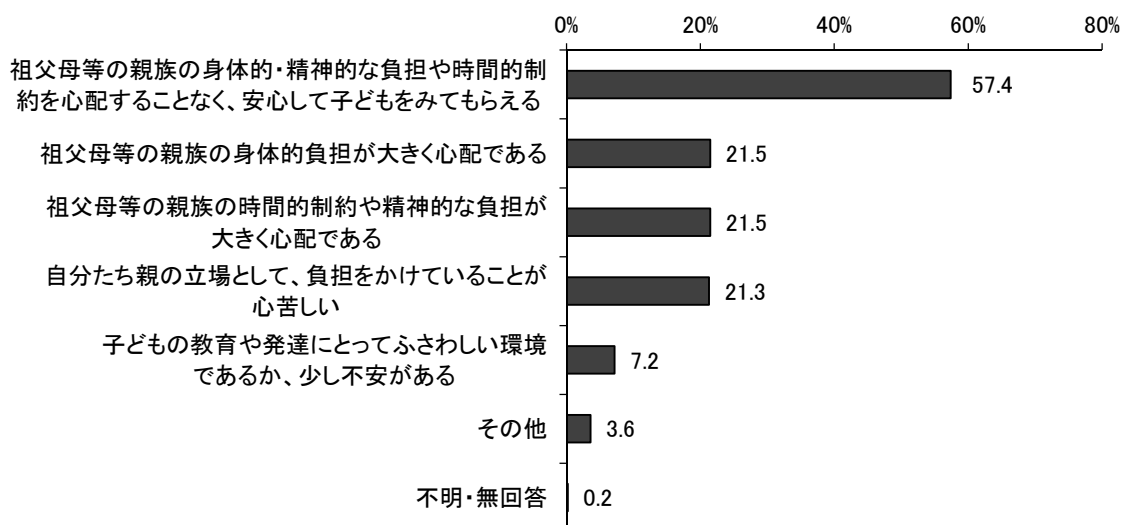
(2)で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選んだ方

(2) - 1 祖父母等の親族にみてもらっている状況〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9-1〕

祖父母等の親族にみてもらっている状況についてみると、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が57.4%、次いで、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が21.5%となっています。

就学前児童(N=610)



家庭類型別 × 祖父母等の親族にみてもらっている状況

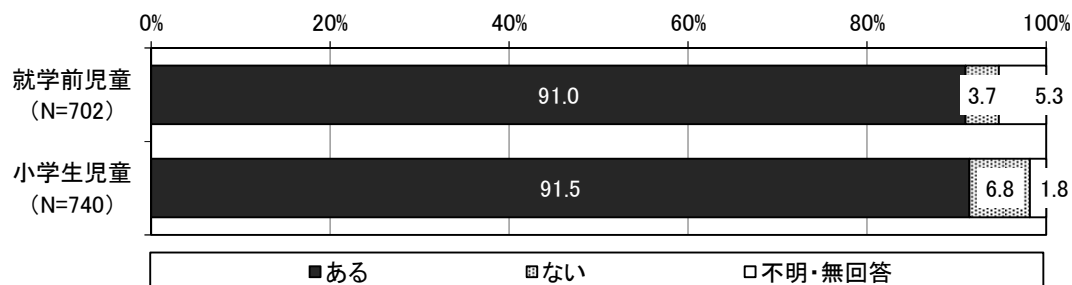
家庭類型別にみると、すべての家庭類型で「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も高くなっています。また、[ひとり親家庭]では、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」「子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安である」が他の家庭類型と比較して高くなっており、親族に日常的に預けながら、心苦しさを教育面での不安を抱えています。

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=28		フルタイム×フ N=121		（パフル） 長時間タイム× N=72		（パフル） 短時間タイム× N=32		専業主婦（夫） N=243		（パパ） 長時間タイム× N=3		無業×無業 N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる	15	53.6	55	45.5	45	62.5	19	59.4	154	63.4	2	66.7	1
祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である	6	21.4	33	27.3	15	20.8	5	15.6	39	16.0	1	33.3	1	50.0
祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	6	21.4	36	29.8	14	19.4	8	25.0	39	16.0	0	0.0	1	50.0
自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	9	32.1	33	27.3	16	22.2	7	21.9	44	18.1	1	33.3	0	0.0
子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある	4	14.3	9	7.4	4	5.6	3	9.4	12	4.9	0	0.0	1	50.0
その他	1	3.6	7	5.8	3	4.2	0	0.0	7	2.9	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0

(3) 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問10・小学生児童調査…問9〕

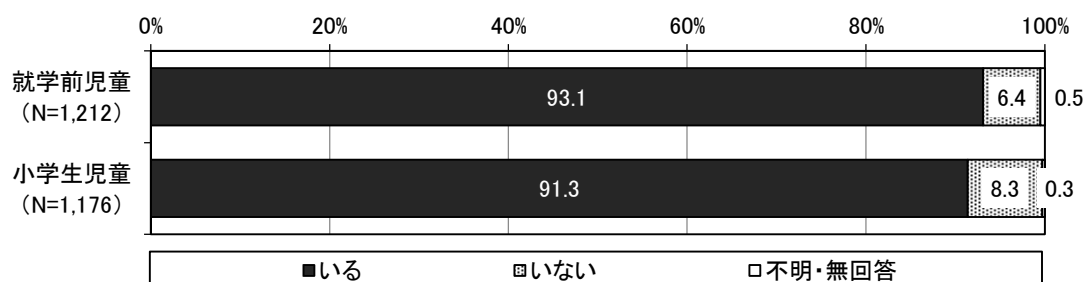
子育てをする上での相談相手（場所）の有無についてみると、「ある」が就学前児童で91.0%、小学生児童で91.5%となっています。



前回調査比較：子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

前回調査と比較すると、就学前児童、小学生児童ともに、ほぼ同様の結果となっていますが、「ない」割合がわずかに増加しています。

【前回調査結果（平成21年）】

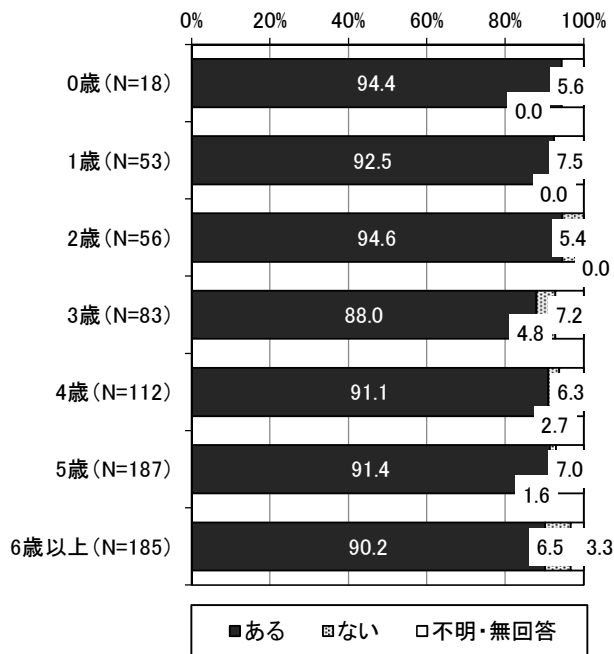


年齢別 × 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

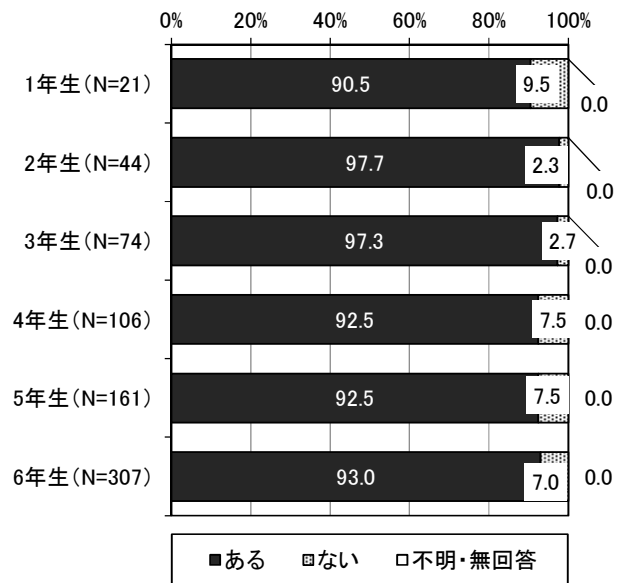
就学前児童について年齢別にみると、すべての年齢で「ある」が約9割となっていますが、[0歳]～[2歳]より[3歳]～[6歳以上]では「ある」の割合がやや低くなっています。

小学生児童について年齢別にみると、すべての年齢で「ある」が約9割となっていますが、[1年生]では他の年齢より低くなっています。就園や就学前後は相談内容が変化するため、相談相手や相談場所が分からず、相談できない人もいることがうかがえます。

就学前児童



小学生児童

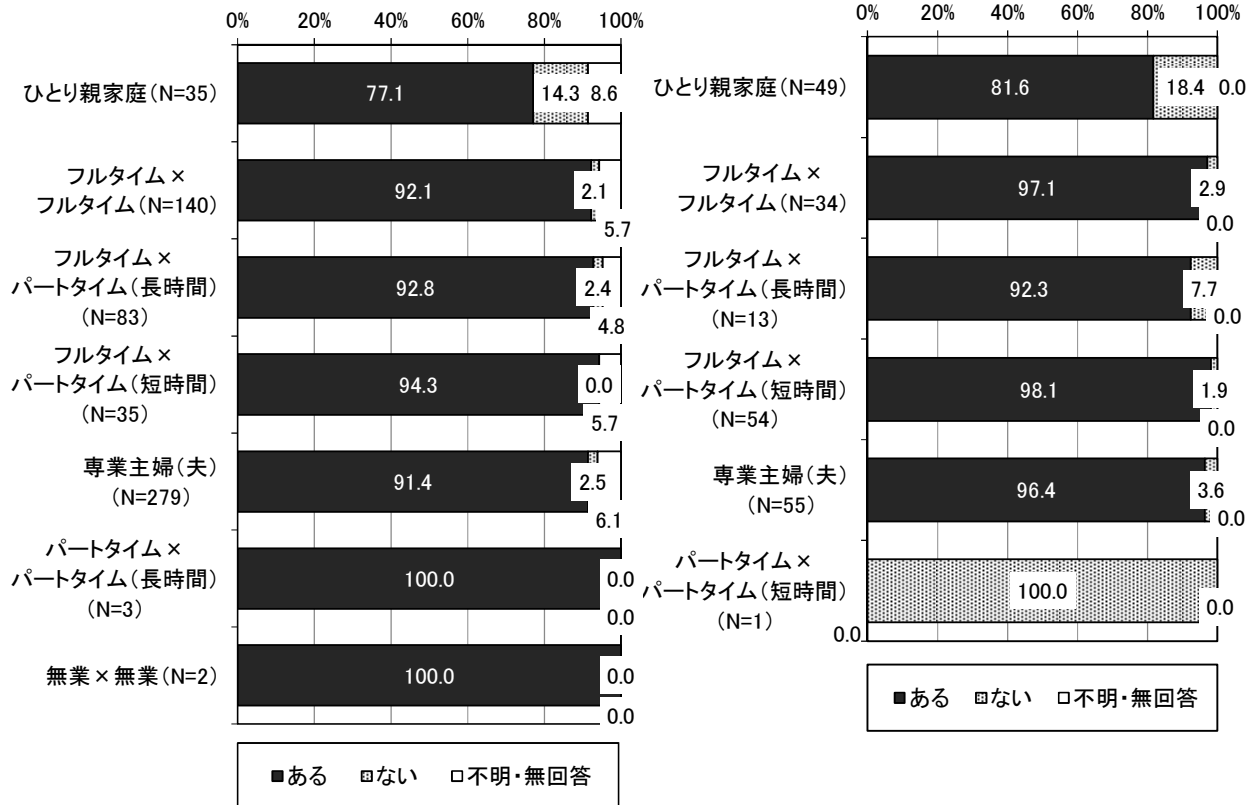


家庭類型別 × 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

家庭類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに〔ひとり親家庭〕以外のすべての家庭類型で「ある」割合が9割以上となっています。一方、〔ひとり親家庭〕では、「ある」が約8割と他の家庭類型に比べて低くなっています。

就学前児童

小学生児童



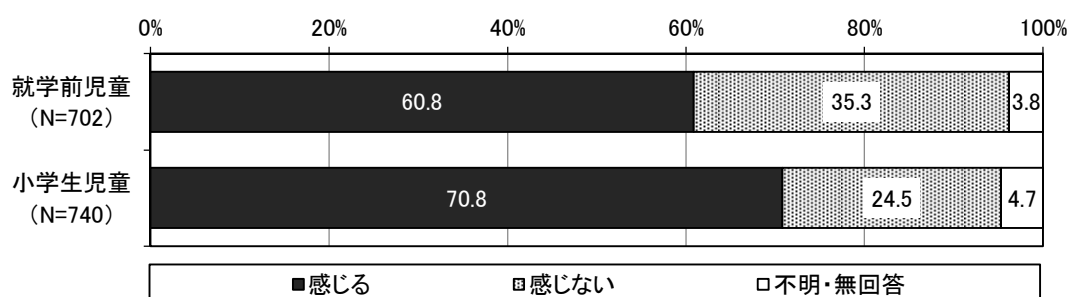
(4) 子育てが、地域の人や社会に支えられていると感じるか。〈単数回答〉
また、特に誰に支えられていると感じるか。特に誰から支えてほしいと感じるか。
〈複数回答〉

[就学前児童調査…問 11・小学生児童調査…問 10]

子育てが、地域の人や社会に支えられていると感じるかについては、「感じる」が就学前児童で60.8%、小学生児童で70.8%となっています。

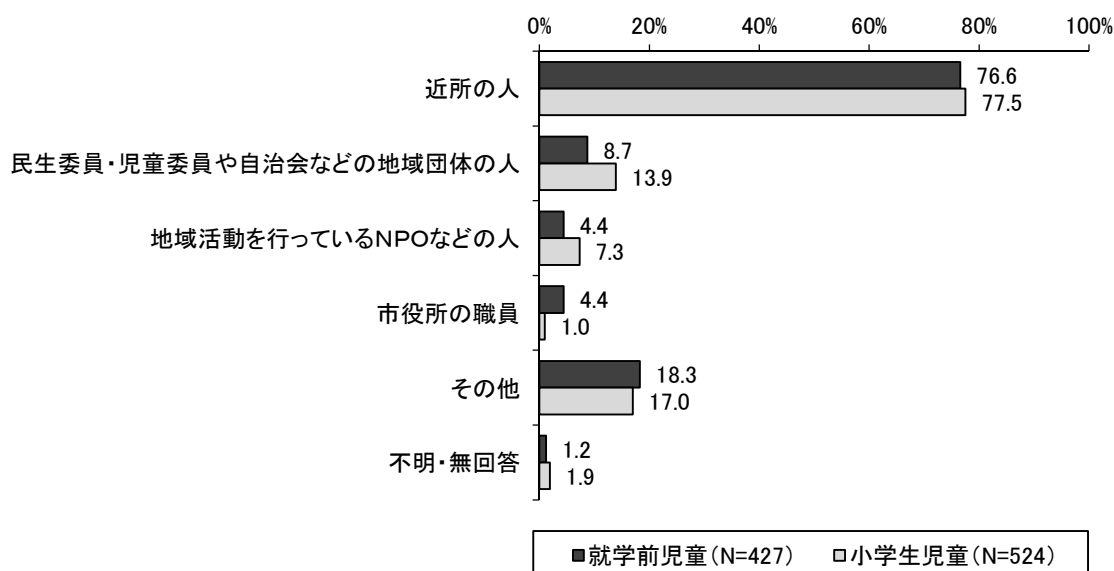
特に誰に支えられていると感じるかについては、「近所の人」が就学前児童で76.6%、小学生児童で77.5%と最も高くなっています。

特に誰から支えてほしいと感じるかについては、「近所の人」が就学前児童で29.4%、小学生児童で24.3%と最も高くなっています。



(4) で「感じる」を選んだ方

(4) - 1 特に誰に支えられていると感じるか



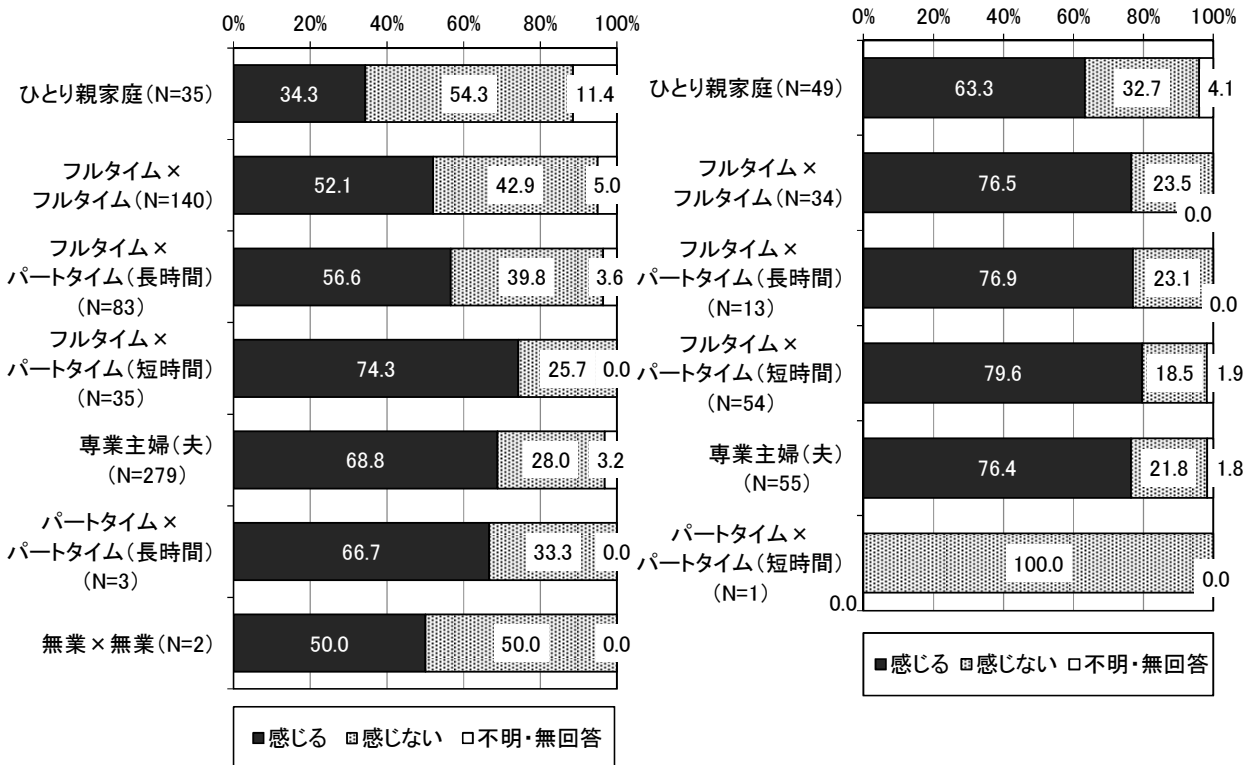
家庭類型別 × 子育てが、地域の人や社会に支えられていると感じるか

就学前児童について家庭類型別にみると、[ひとり親家庭] [フルタイム×フルタイム] [フルタイム×パートタイム（長時間）] では「感じる」割合が全体に比べて低くなっています。

小学生児童について家庭類型別にみると、[ひとり親家庭] では「感じる」割合が全体に比べて低くなっています。特に、[ひとり親家庭] では相談相手がないと回答していた割合も他の家庭類型より高くなっていたため、地域や社会に支えられていると感じている人の割合が低いことが予想されま

就学前児童

小学生児童



小学校区別 × 特に誰に支えられていると感じるか

就学前児童について小学校区別にみると、[治道小学校]では「近所の人」が他の小学校区と比較して高く、[片桐西小学校]では「民生委員・児童委員や自治会などの地域団体の人」が他の小学校区と比較して高くなっています。

小学生児童について小学校区別にみると、[治道小学校]では「近所の人」「民生委員・児童委員や自治会などの地域団体の人」が他の小学校区と比較して高くなっています。

◎就学前児童

【就学前児童】 小学校区別	郡山南小学校 N=59		郡山北小学校 N=48		郡山西小学校 N=62		矢田小学校 N=23		筒井小学校 N=36		平和小学校 N=19		治道小学校 N=11		昭和小学校 N=52	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	近所の人	48	81.4	32	66.7	49	79.0	18	78.3	29	80.6	16	84.2	10	90.9	38
民生委員・児童委員や自治会などの地域団体の人	4	6.8	5	10.4	3	4.8	3	13.0	1	2.8	2	10.5	0	0.0	6	11.5
地域活動を行っているNPOなどの人	4	6.8	2	4.2	3	4.8	1	4.3	3	8.3	1	5.3	0	0.0	1	1.9
市役所の職員	3	5.1	1	2.1	0	0.0	4	17.4	3	8.3	2	10.5	0	0.0	2	3.8
その他	9	15.3	12	25.0	13	21.0	2	8.7	3	8.3	1	5.3	2	18.2	10	19.2
不明・無回答	1	1.7	2	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.9

【就学前児童】 小学校区別	片桐小学校 N=49		片桐西小学校 N=35		矢田南小学校 N=21	
	件数	%	件数	%	件数	%
	近所の人	35	71.4	28	80.0	17
民生委員・児童委員や自治会などの地域団体の人	2	4.1	7	20.0	3	14.3
地域活動を行っているNPOなどの人	2	4.1	2	5.7	0	0.0
市役所の職員	1	2.0	1	2.9	0	0.0
その他	16	32.7	4	11.4	3	14.3
不明・無回答	1	2.0	0	0.0	0	0.0

◎小学生児童

【小学生児童】 小学校区別	郡山南小学校		郡山北小学校		郡山西小学校		矢田小学校		筒井小学校		平和小学校		治道小学校		昭和小学校	
	N=70		N=63		N=60		N=36		N=34		N=46		N=12		N=49	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
近所の人	57	81.4	47	74.6	45	75.0	25	69.4	29	85.3	34	73.9	11	91.7	39	79.6
民生委員・児童委員や自治会などの地域団体の人	5	7.1	8	12.7	7	11.7	5	13.9	3	8.8	10	21.7	4	33.3	12	24.5
地域活動を行っているNPOなどの人	4	5.7	3	4.8	5	8.3	4	11.1	1	2.9	3	6.5	1	8.3	4	8.2
市役所の職員	2	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.9	0	0.0	1	8.3	1	2.0
その他	11	15.7	11	17.5	9	15.0	7	19.4	4	11.8	8	17.4	2	16.7	8	16.3
不明・無回答	2	2.9	2	3.2	0	0.0	0	0.0	1	2.9	2	4.3	0	0.0	1	2.0

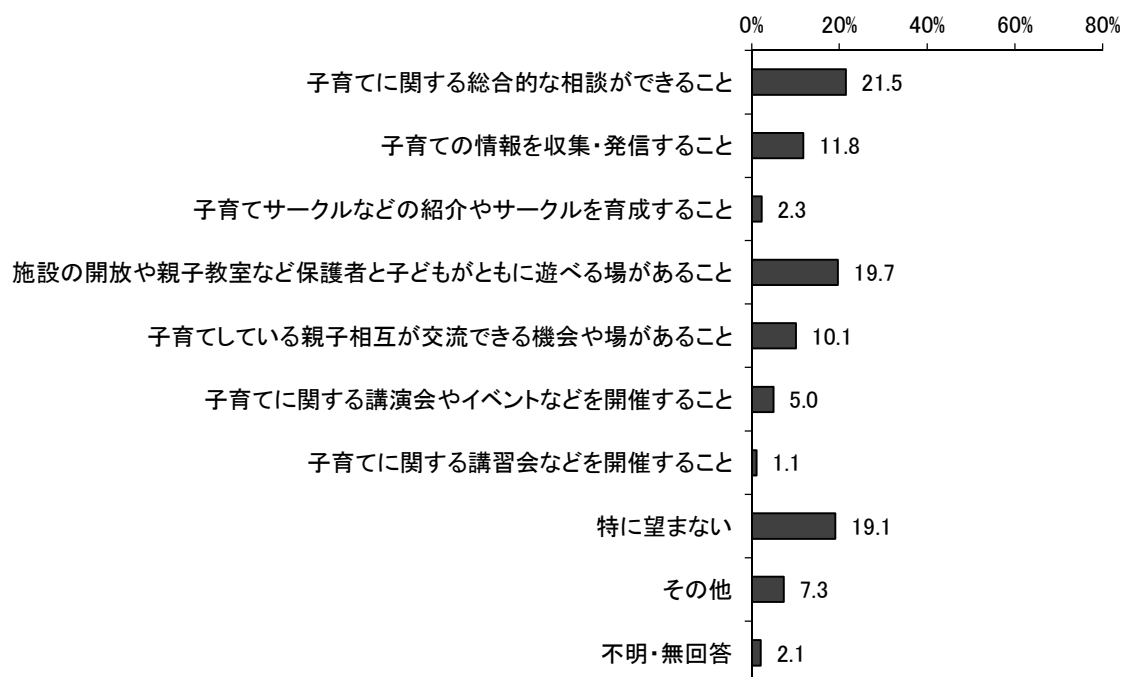
【小学生児童】 小学校区別	片桐小学校		片桐西小学校		矢田南小学校	
	N=60		N=35		N=58	
	件数	%	件数	%	件数	%
近所の人	48	80.0	25	71.4	45	77.6
民生委員・児童委員や自治会などの地域団体の人	6	10.0	5	14.3	8	13.8
地域活動を行っているNPOなどの人	5	8.3	1	2.9	7	12.1
市役所の職員	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	8	13.3	9	25.7	12	20.7
不明・無回答	1	1.7	0	0.0	1	1.7

(5) 地域子育て支援センターや親子たんとん広場に対して特にどのような事業が必要か。〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 13〕

地域子育て支援センターや親子たんとん広場に対して特にどのような事業が必要かについては、「子育てに関する総合的な相談ができること」が 21.5%と最も高く、次いで「施設の開放や親子教室など保護者と子どもがともに遊べる場があること」が 19.7%となっています。

就学前児童(N=702)



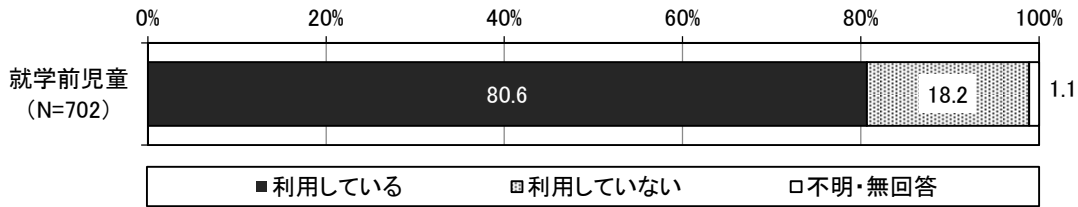
年齢別 × 地域子育て支援センター等に必要事業

年齢別にみると、[0歳]では「施設の開放や親子教室など保護者と子どもがともに遊べる場があること」が最も高く、他の年齢と比較しても高くなっています。また「特に望まない」割合は[3歳]以上でわずかに高くなっています。

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳以上	
	N=18		N=53		N=56		N=83		N=112		N=187		N=185	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
子育てに関する総合的な相談ができること	3	16.7	11	20.8	13	23.2	19	22.9	23	20.5	47	25.1	35	18.9
子育ての情報を収集・発信すること	3	16.7	5	9.4	8	14.3	6	7.2	8	7.1	28	15.0	24	13.0
子育てサークルなどの紹介やサークルを育成すること	0	0.0	4	7.5	0	0.0	2	2.4	5	4.5	1	0.5	4	2.2
施設の開放や親子教室など保護者と子どもがともに遊べる場があること	5	27.8	7	13.2	12	21.4	18	21.7	23	20.5	38	20.3	34	18.4
子育てしている親子相互が交流できる機会や場があること	3	16.7	5	9.4	6	10.7	9	10.8	11	9.8	18	9.6	19	10.3
子育てに関する講演会やイベントなどを開催すること	0	0.0	3	5.7	4	7.1	3	3.6	4	3.6	10	5.3	11	5.9
子育てに関する講習会などを開催すること	1	5.6	3	5.7	0	0.0	0	0.0	1	0.9	3	1.6	0	0.0
特に望まない	3	16.7	9	17.0	6	10.7	19	22.9	25	22.3	28	15.0	40	21.6
その他	0	0.0	3	5.7	7	12.5	5	6.0	8	7.1	10	5.3	16	8.6
不明・無回答	0	0.0	3	5.7	0	0.0	2	2.4	4	3.6	4	2.1	2	1.1

(6) 現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 15〕

現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が80.6%と大部分を占めています。



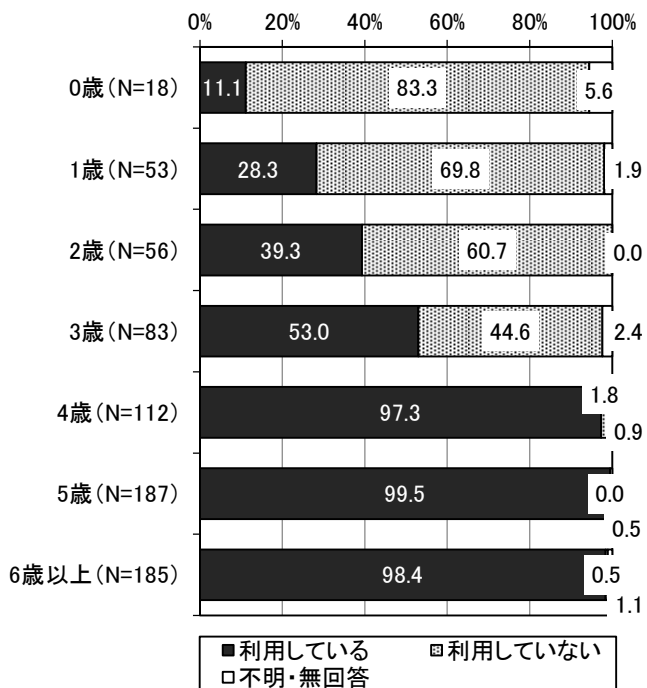
*ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指す。具体的には、幼稚園や保育所など、就学前児童調査問 15- (1) に示す事業が含まれる。

年齢別、家庭類型別×現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無

年齢別にみると、[0歳] から [3歳] にかけて「利用している」の割合が増加しています。家庭類型別にみると、[専業主婦(夫)] では「利用していない」が3割とやや高くなっています。

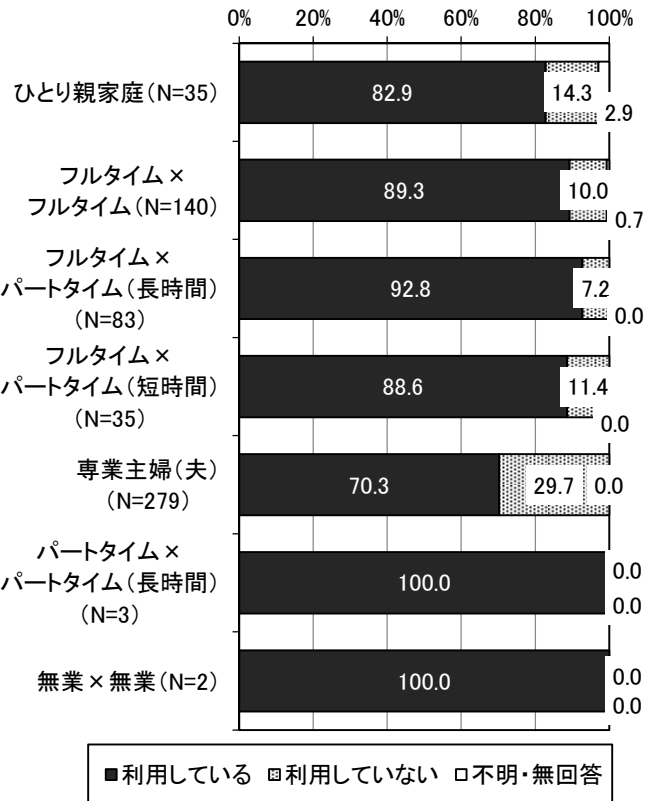
■ 年齢別

就学前児童



■ 家庭類型別

就学前児童



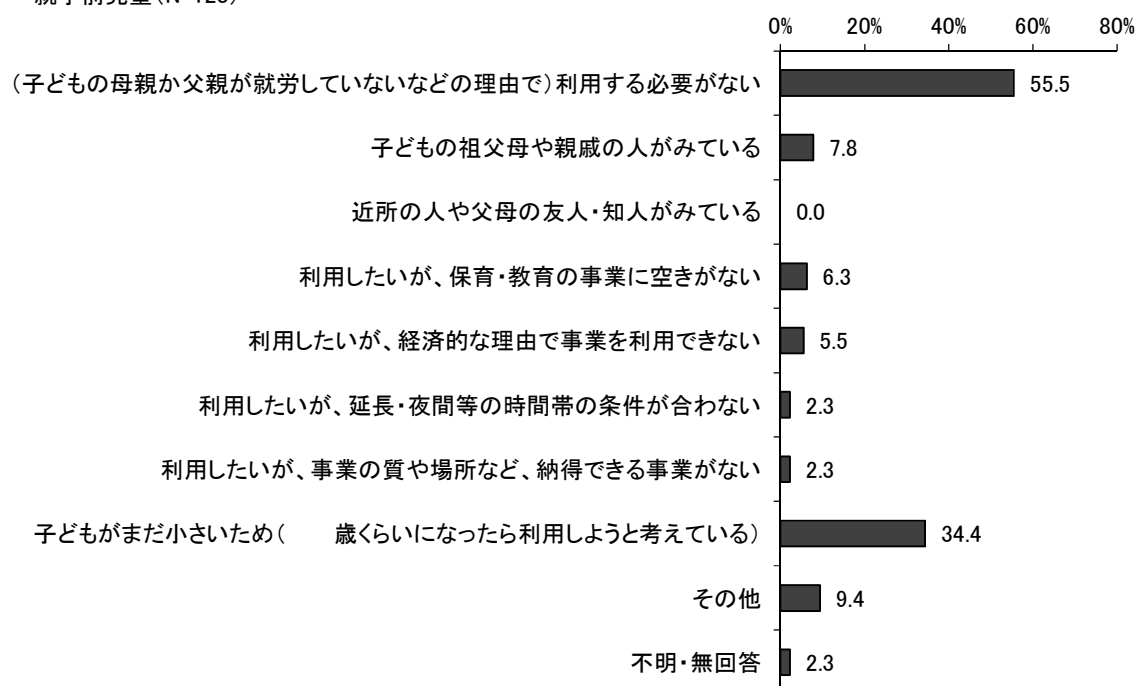
(6)で「利用していない」を選んだ方

(6)－1 利用していない主な理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 15－5〕

平日、教育・保育事業を利用していない主な理由についてみると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が 55.5%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)」が 34.4%となっています。

また、子どもがまだ小さいために教育・保育事業を利用していない方で、今後利用しようとする時の子どもの年齢については、「3歳」が 47.7%と最も高くなっています。

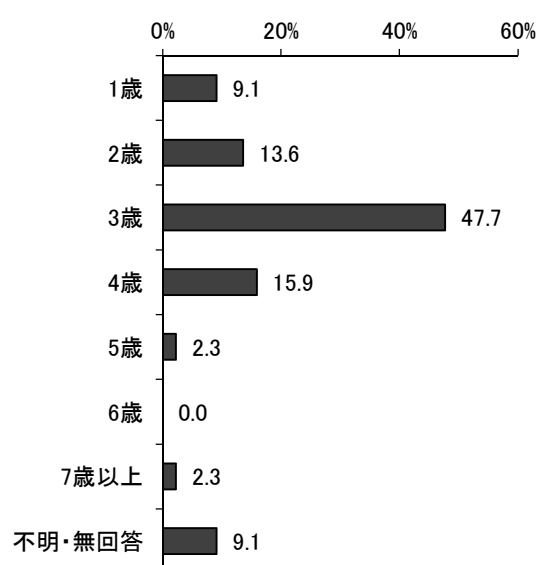
就学前児童(N=128)



◎利用したい時の子どもの年齢〈数量回答〉

《「子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)」を選んだ方》

就学前児童(N=128)



年齢別×利用していない主な理由

年齢別にみると、[0歳] から [3歳] にかけて「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が最も高く、[4歳] 以上は該当者はわずかとなっています。

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳以上	
	N=15		N=37		N=34		N=37		N=2		N=0		N=1	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない	9	60.0	17	45.9	19	55.9	22	59.5	1	50.0	0	0.0	1	100.0
子どもの祖父母や親戚の人がみている	2	13.3	2	5.4	0	0.0	5	13.5	0	0.0	0	0.0	1	100.0
近所の人や父母の友人・知人がみている	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	1	6.7	3	8.1	1	2.9	3	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	0	0.0	2	5.4	3	8.8	2	5.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	0	0.0	1	2.7	0	0.0	2	5.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)	7	46.7	12	32.4	14	41.2	11	29.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	1	6.7	7	18.9	1	2.9	3	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	1	2.7	0	0.0	1	2.7	1	50.0	0	0.0	0	0.0

（7）子育てに関する機関や子育てサービスの認知度と利用経験、今後の利用意向〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 19〕

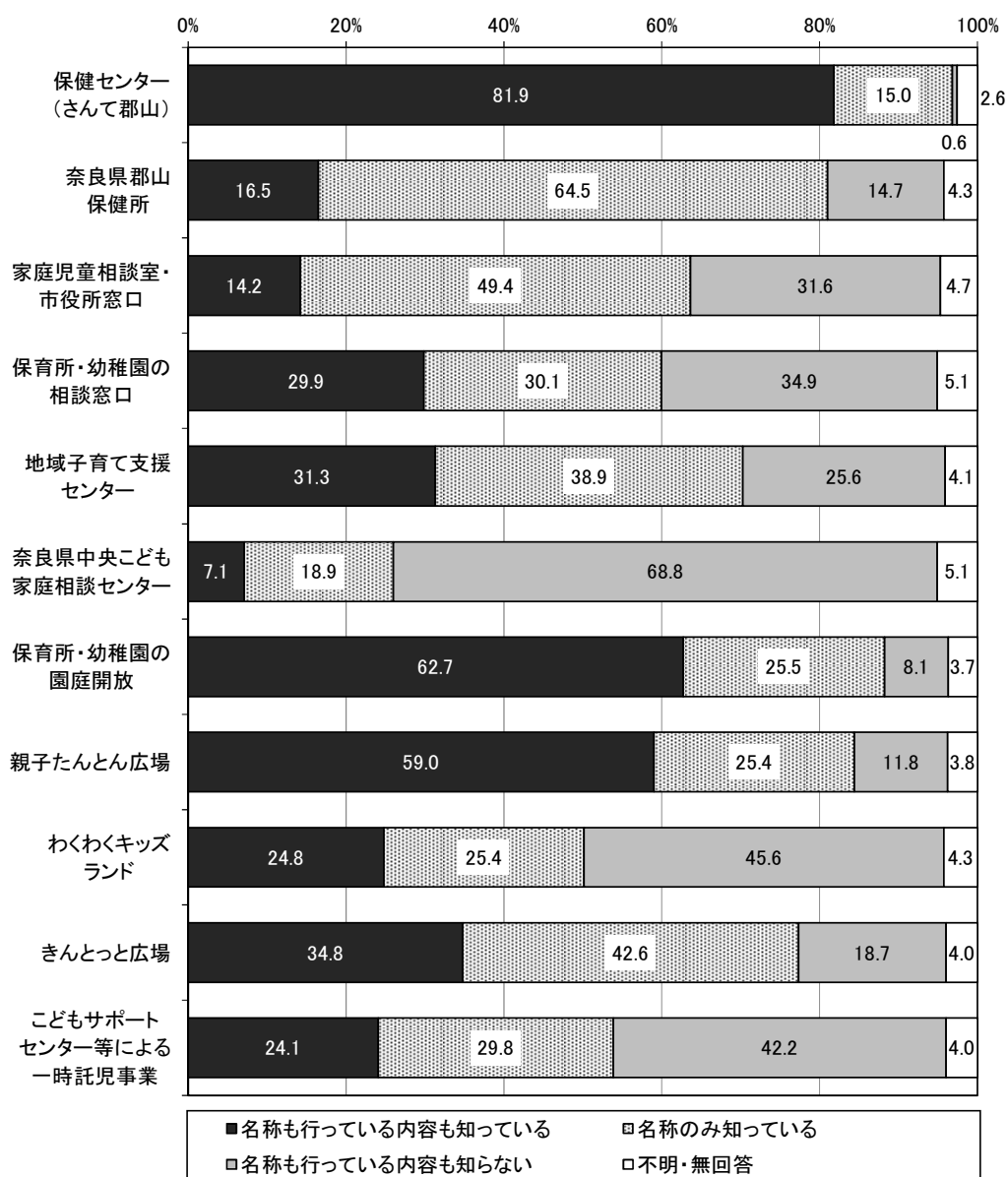
子育てに関する機関や子育てサービスの認知度についてみると、「名称も行っている内容も知っている」では、『保健センター（さんて郡山）』が81.9%と最も高く、次いで『保育所・幼稚園の園庭解放』が62.7%となっています。

子育てに関する機関や子育てサービスの利用経験についてみると、「利用したことがある」では、『保健センター（さんて郡山）』が82.2%と最も高く、次いで『親子たんとん広場』が48.3%となっています。

子育てに関する機関や子育てサービスの今後の利用意向についてみると、「今後利用したい」では、『保健センター（さんて郡山）』が51.4%と最も高く、次いで『保育所・幼稚園の園庭解放』が39.5%となっています。

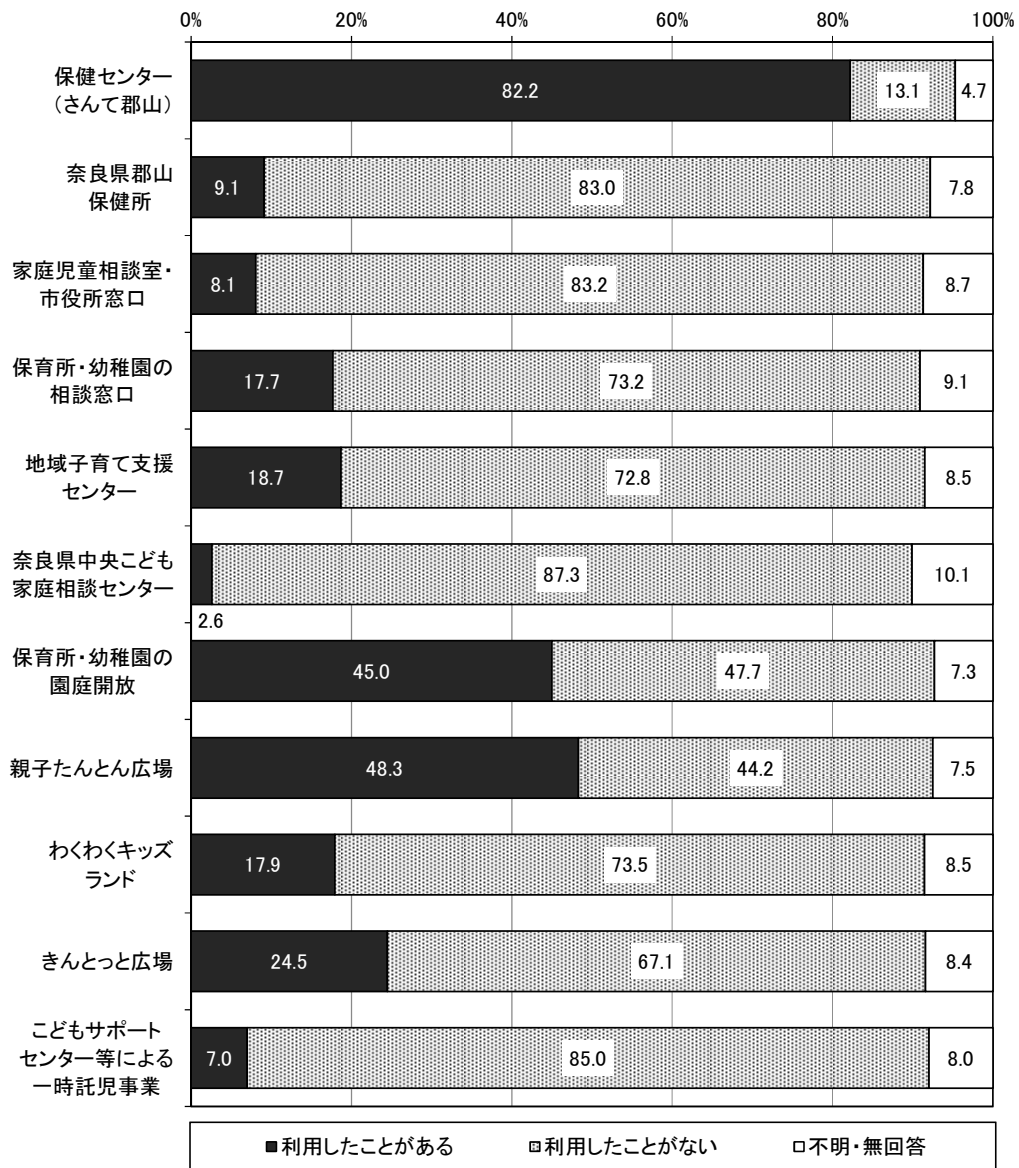
◎認知度

就学前児童(N=702)



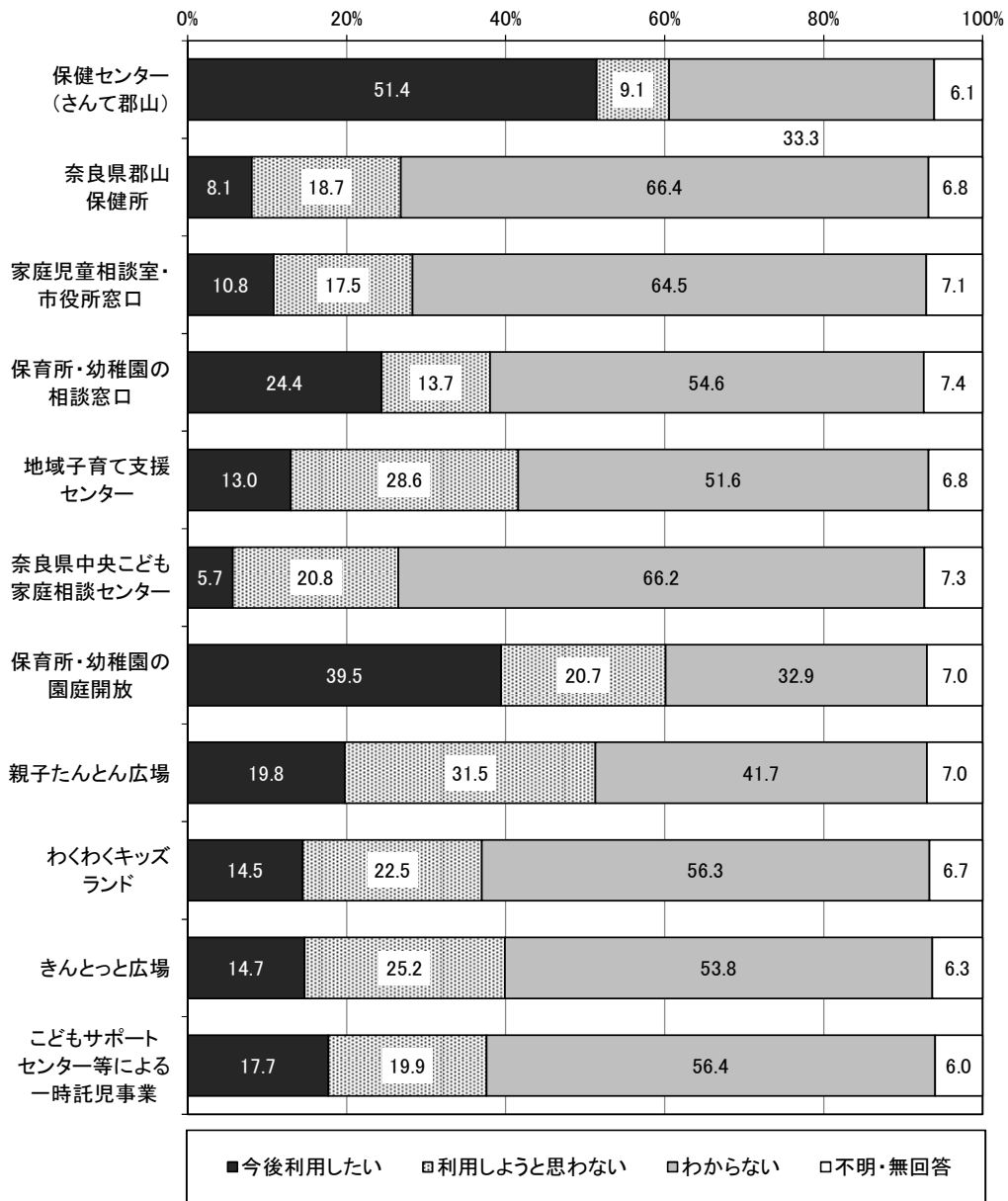
◎利用経験

就学前児童(N=702)



◎今後の利用意向

就学前児童(N=702)



前回調査比較：関連機関等の認知度と利用経験、今後の利用意向

認知度を前回調査と比較すると、選択肢が異なるものの、今回調査の「名称も行っている内容も知っている」「名称のみ知っている」の合計と前回調査の「知っている」を比較すると、「保健センター（さんて郡山）」を除くすべての項目で前回調査より今回調査の割合が高くなっています。

利用経験を前回調査と比較すると、「保健センター（さんて郡山）」「家庭児童相談室・市役所窓口」「地域子育て支援センター」「親子たんどん広場」「わくわくキッズランド」「きんとつと広場」の「利用したことがある」で前回調査より今回調査の割合が高くなっています。

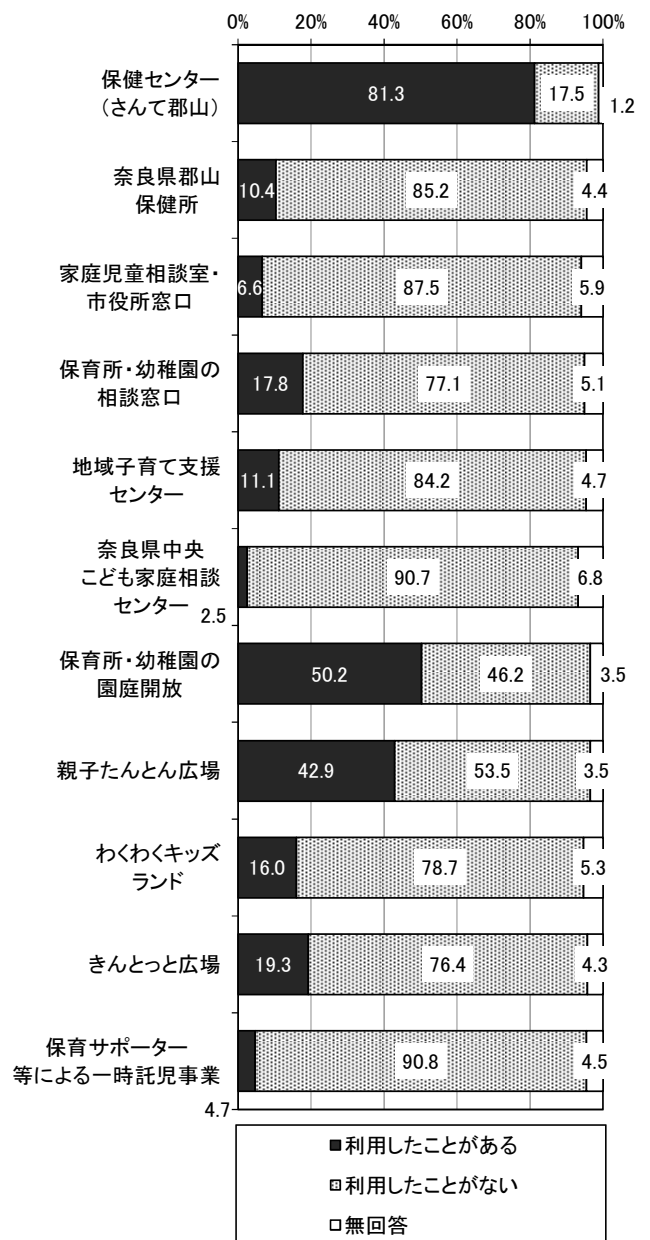
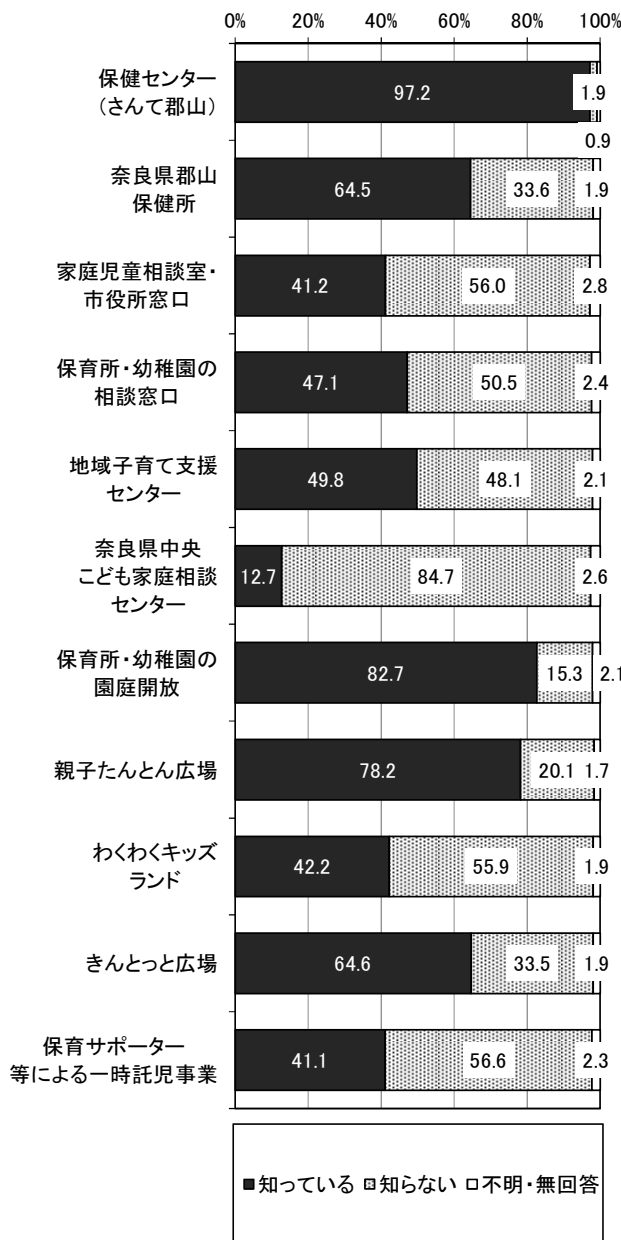
利用経験を前回調査と比較すると、「今後利用したい」との回答は、すべての項目で前回調査より今回調査の割合が低くなっています。

◎認知度（前回調査 平成 21 年）

◎利用経験（前回調査 平成 21 年）

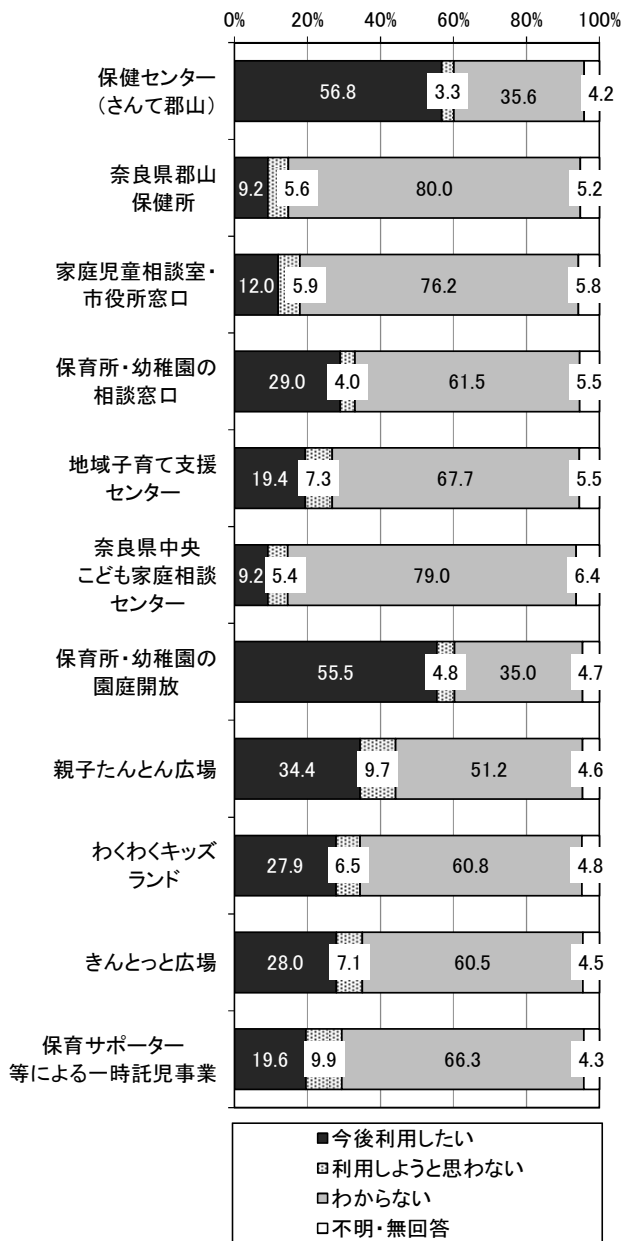
就学前児童(N=1,212)

就学前児童(N=1,212)



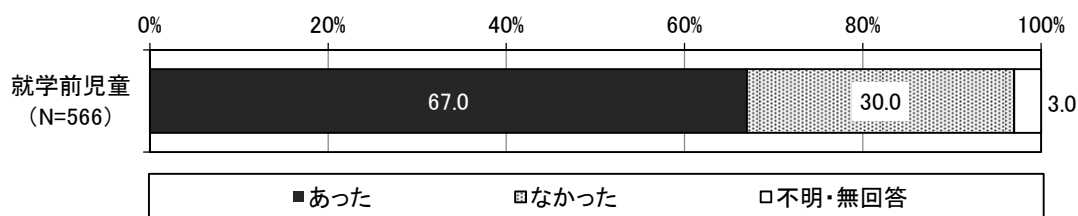
◎今後の利用意向（前回調査 平成 21 年）

就学前児童 (N=1,212)



(8) この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無
〈単数回答〉〔就学前児童調査…問22〕

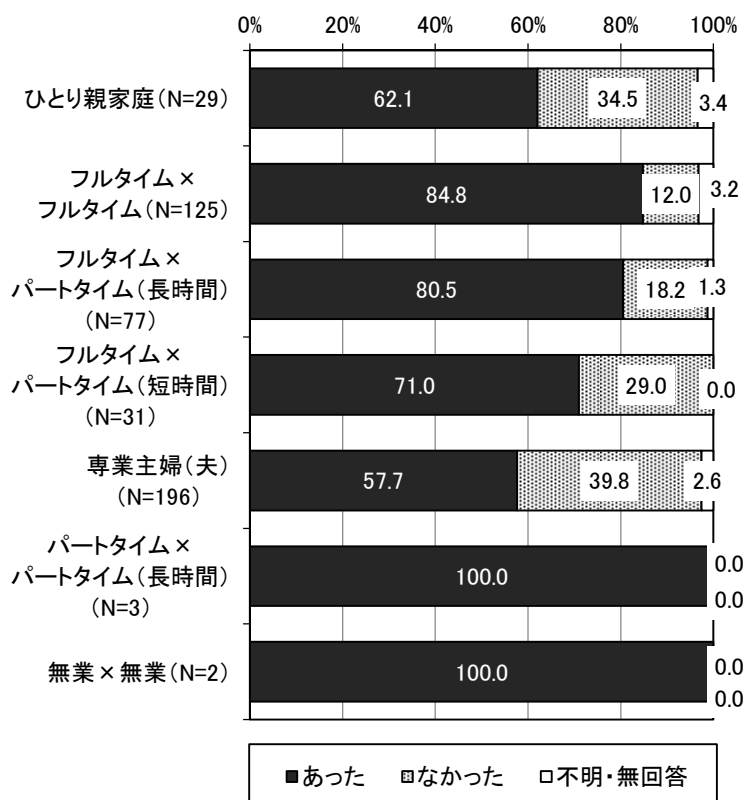
この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無についてみると、「あった」が67.0%、「なかった」が30.0%となっています。



家庭類型別×病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無

家庭類型別にみると、[フルタイム×フルタイム]で「あった」割合が最も高くなっています。

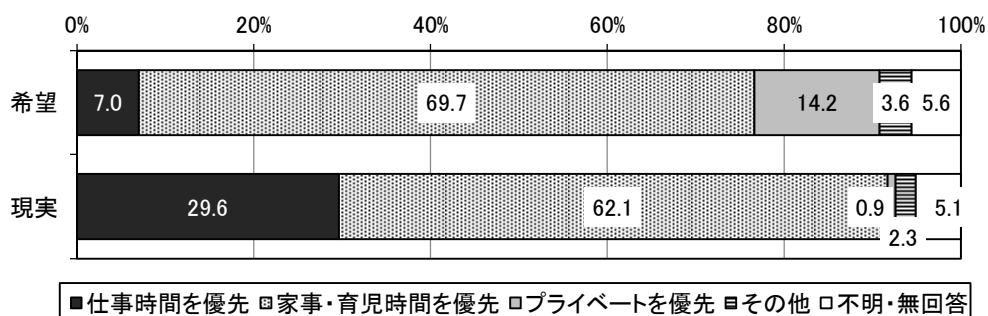
就学前児童



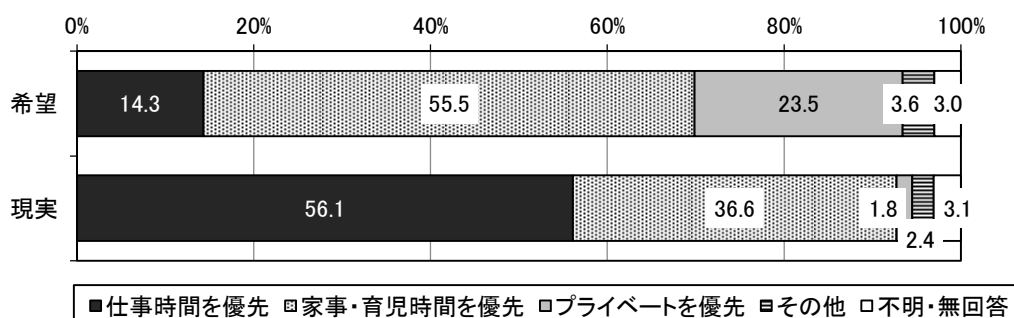
(9)「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度についての希望と現実〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 30、小学生児童調査…問 13〕

「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度についての希望と現実についてみると、就学前児童では、『希望』『現実』ともに「家事・育児時間を優先」が最も高くなっています。小学生児童については、『希望』は「家事・育児時間を優先」が最も高くなっているのに対し、『現実』は「仕事時間を優先」が最も高くなっています。

就学前児童(N=702)



小学生児童(N=740)

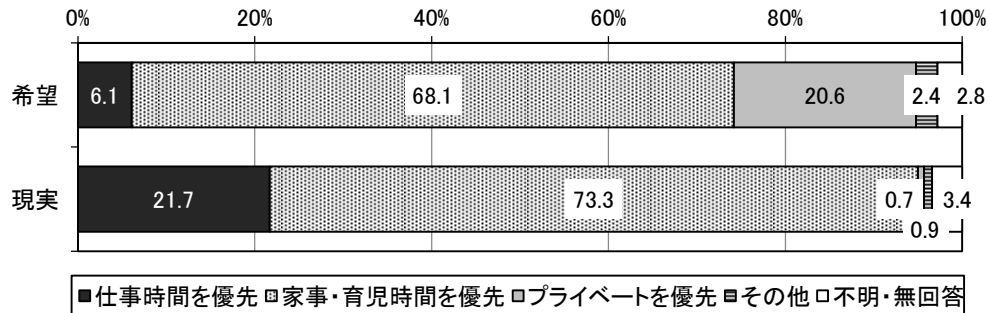


前回調査比較：仕事、家事（育児）等の優先度についての希望と現実

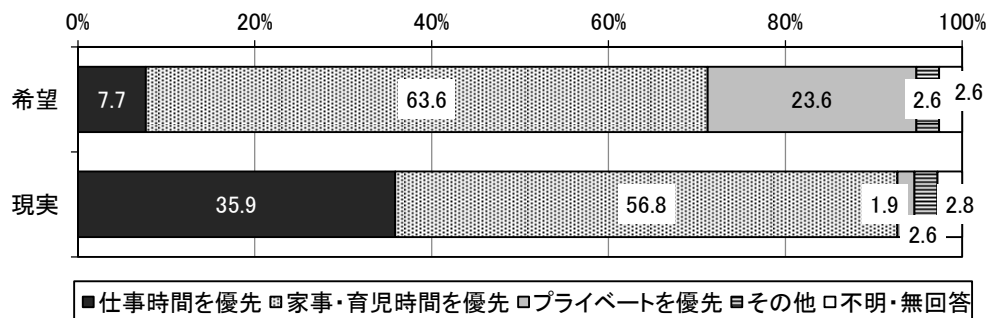
前回調査と比較すると、就学前児童では、希望として「仕事を優先」「プライベートを優先」する割合が、現実としては「仕事を優先」「家事・育児時間を優先」している割合が前回調査に比べ今回調査で高くなっています。小学生児童では、希望、現実ともに「仕事を優先」する割合が前回調査に比べ今回調査で高くなっています。

◎（前回調査 平成 21 年）

就学前児童 (N=1,212)



小学生児童 (N=1,176)



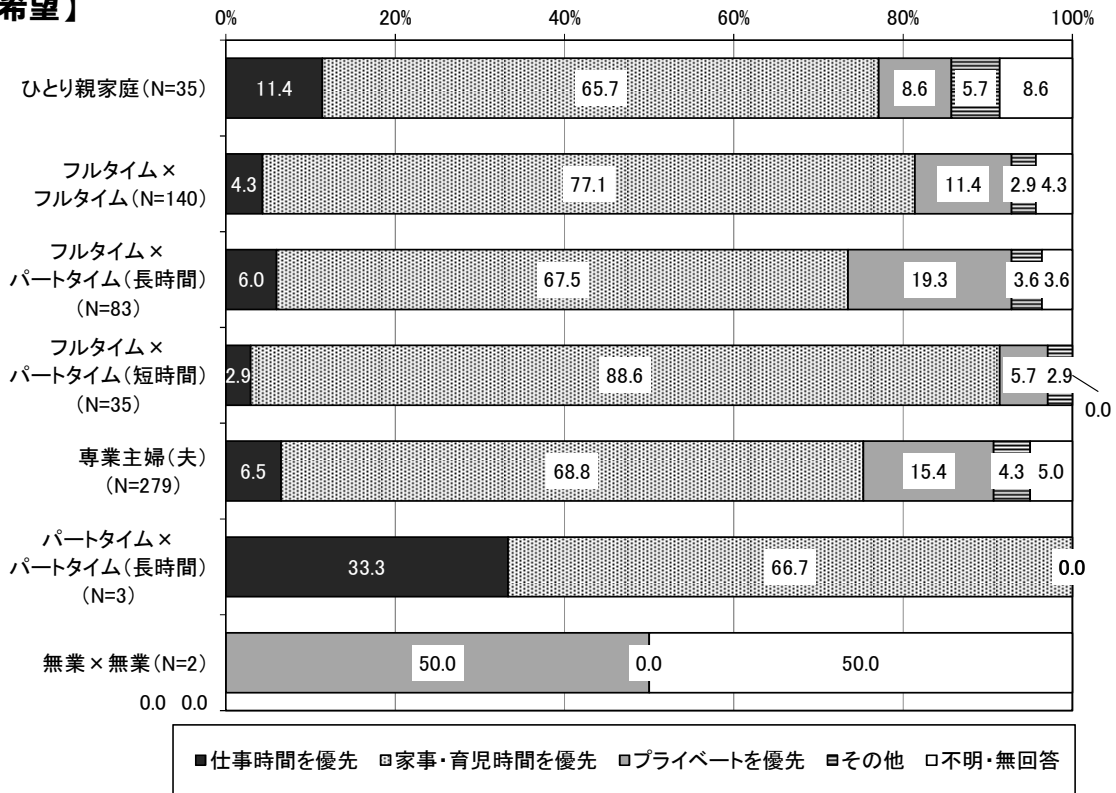
家庭類型別×仕事、家事（育児）等の優先度についての希望と現実

家庭類型別に就学前児童をみると、希望では、[ひとり親家庭]で「仕事を優先」する割合が他の家庭類型と比較して高く、現実では[ひとり親家庭][フルタイム×フルタイム][フルタイム×パートタイム（長時間）]で全体と比較して「仕事を優先」の割合が高くなっています。

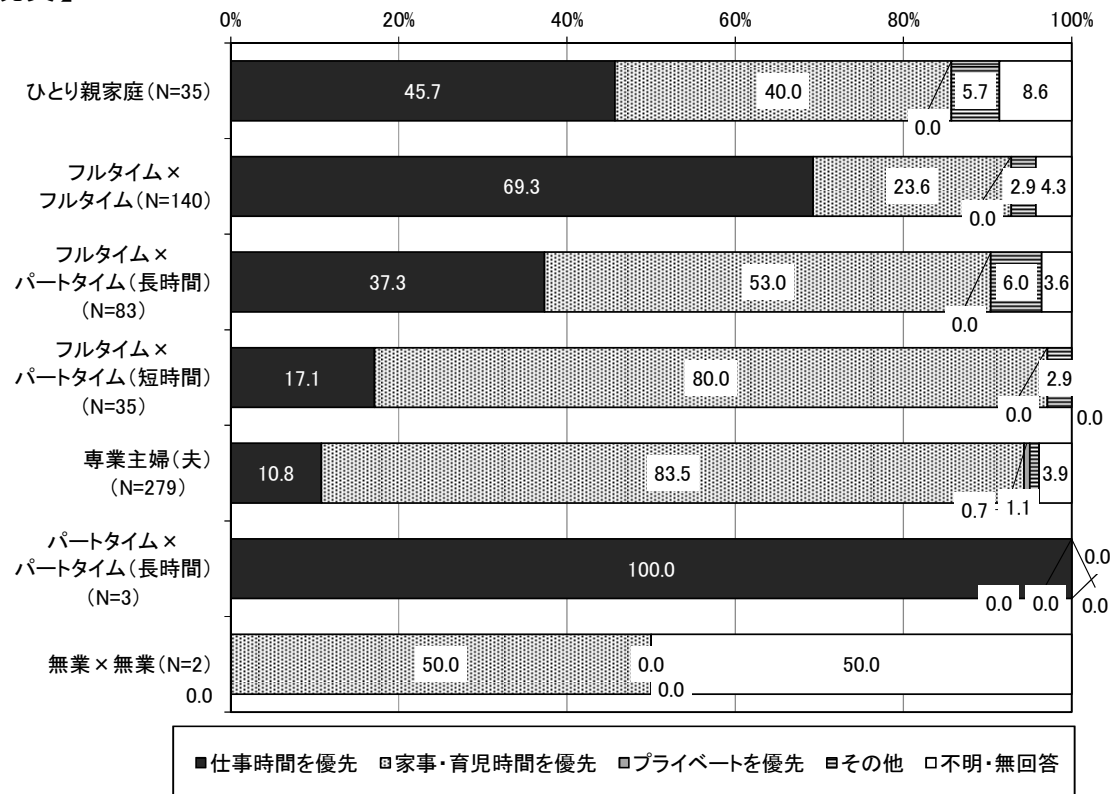
また、家庭類型別に小学生児童をみると、[フルタイム×フルタイム]では、希望で「仕事を優先」する割合が他の家庭類型と比較してやや低くなっていますが、現実では他の家庭類型と比較して「仕事を優先」の割合が高くなっています。

◎就学前児童

【希望】

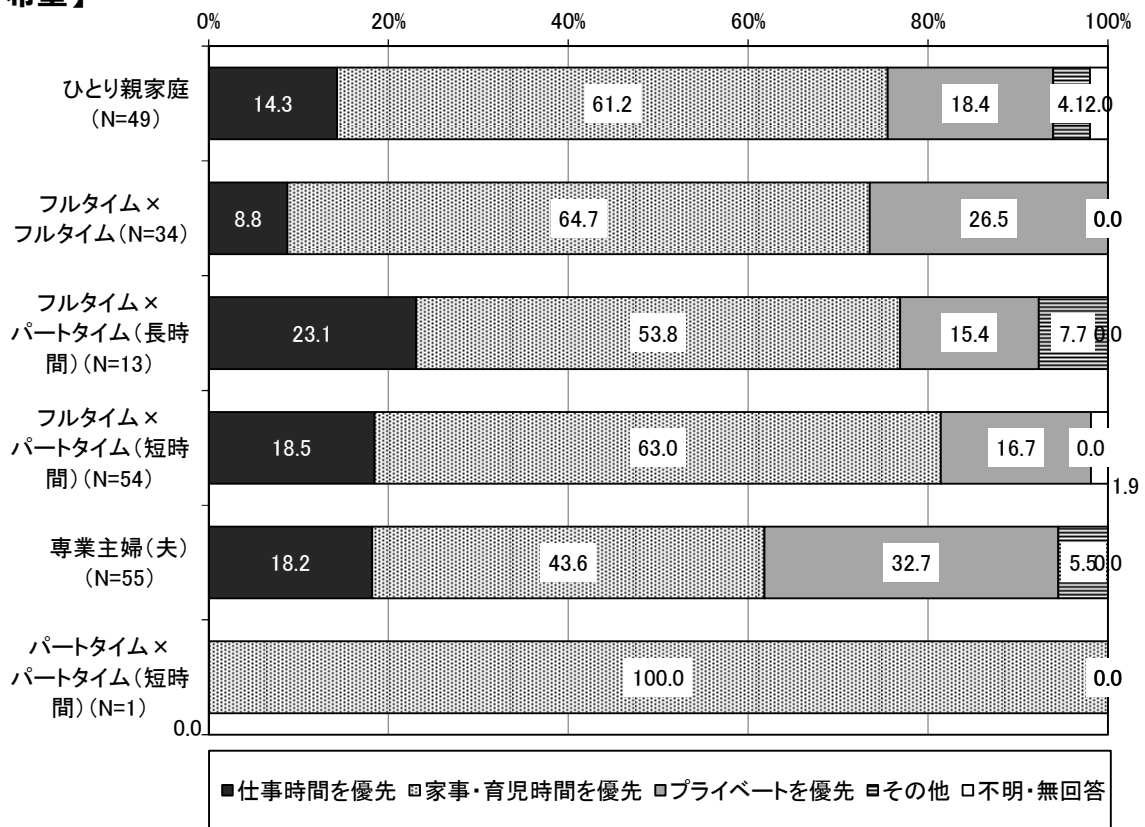


【現実】

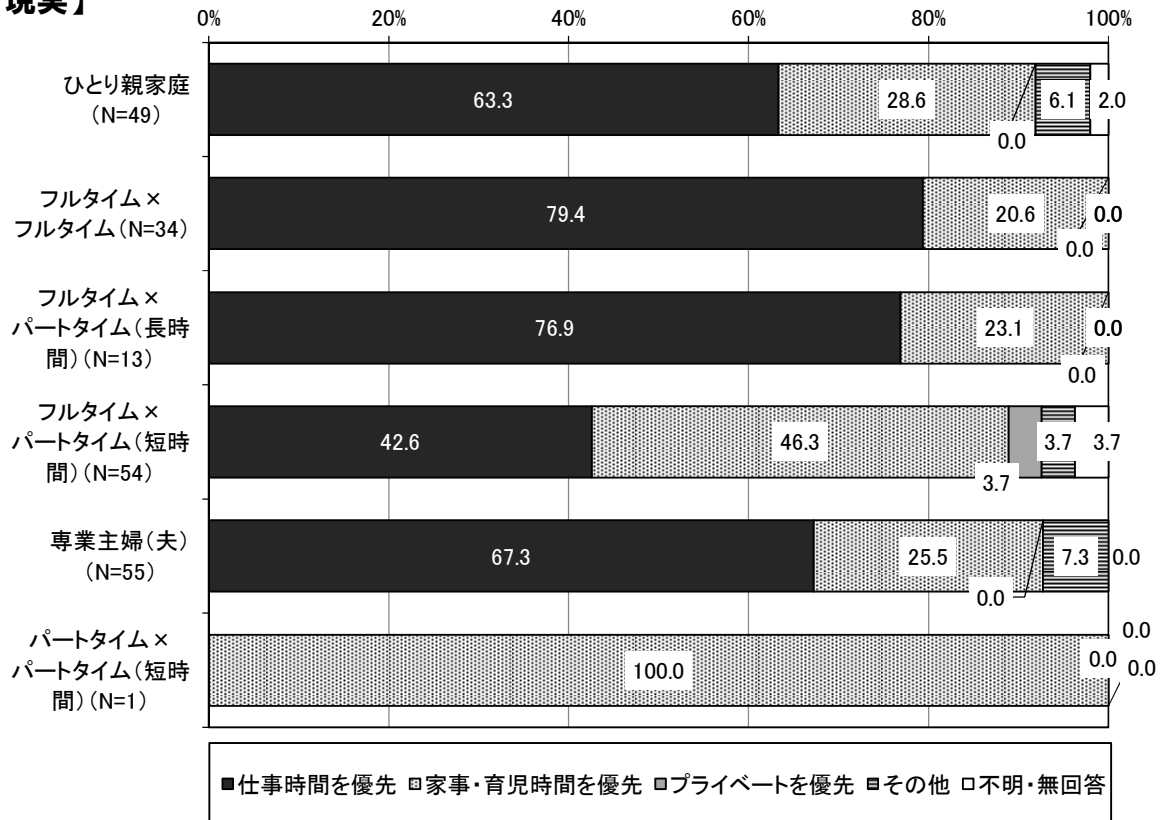


◎小学生児童

【希望】



【現実】

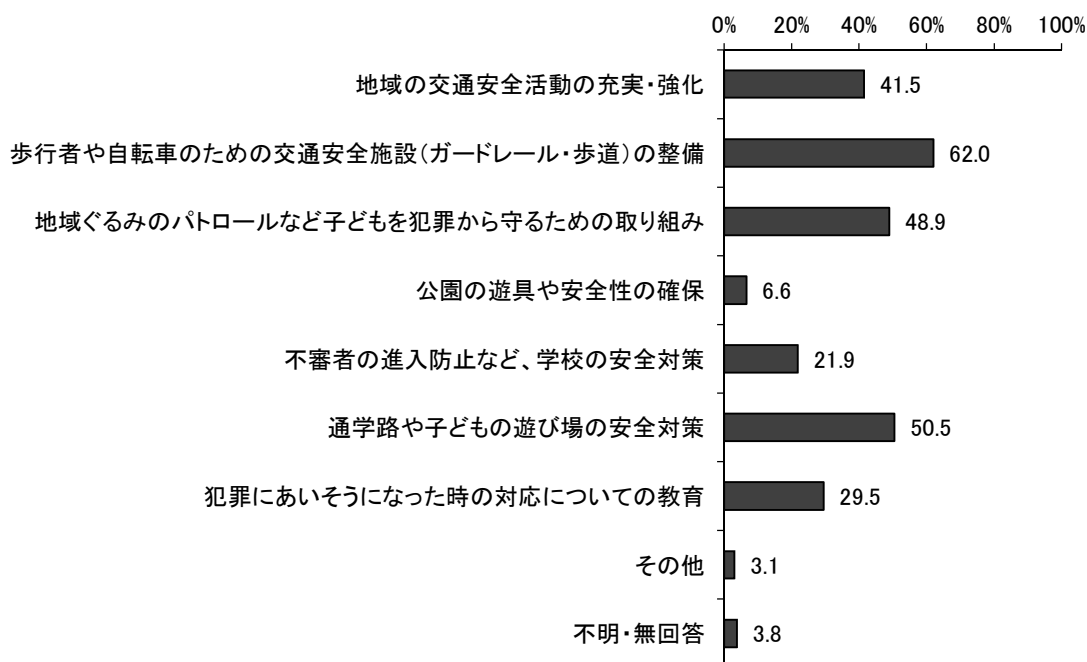


(10) 子どもの安全を守るために、特に重要と思われること〈複数回答〉

〔小学生児童調査…問 17〕

子どもの安全を守るために、特に重要と思われることについてみると、「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール・歩道）の整備」が 62.0%と最も高く、次いで「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が 50.5%、「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が 48.9%となっています。

小学生 (N=740)



小学校区別×子どもの安全を守るために、特に重要と思われること

小学校区別にみると、[平和小学校][矢田南小学校]を除くすべての小学校区で「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール・歩道）の整備」が最も高くなっています。[治道小学校]では「地域の交通安全の充実・強化」も同様に最も高くなっています。

【就学前児童】 年齢別	郡山南小学校 N=94		郡山北小学校 N=89		郡山西小学校 N=77		矢田小学校 N=46		筒井小学校 N=59		平和小学校 N=61		治道小学校 N=16		昭和小学校 N=74	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	地域の交通安全活動の充実・強化	31	33.0	39	43.8	28	36.4	16	34.8	30	50.8	28	45.9	10	62.5	28
歩行者や自転車のための交通安全施設(ガードレール・歩道)の整備	68	72.3	59	66.3	49	63.6	27	58.7	37	62.7	36	59.0	10	62.5	52	70.3
地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み	43	45.7	42	47.2	35	45.5	23	50.0	34	57.6	39	63.9	3	18.8	38	51.4
公園の遊具や安全性の確保	5	5.3	2	2.2	9	11.7	2	4.3	3	5.1	8	13.1	0	0.0	5	6.8
不審者の進入防止など、学校の安全対策	22	23.4	14	15.7	17	22.1	13	28.3	11	18.6	9	14.8	4	25.0	11	14.9
通学路や子どもの遊び場の安全対策	58	61.7	40	44.9	40	51.9	23	50.0	25	42.4	32	52.5	8	50.0	47	63.5
犯罪にあいそうになった時の対応についての教育	22	23.4	34	38.2	24	31.2	17	37.0	17	28.8	19	31.1	4	25.0	16	21.6
その他	1	1.1	0	0.0	3	3.9	1	2.2	5	8.5	0	0.0	0	0.0	4	5.4
不明・無回答	2	2.1	3	3.4	2	2.6	2	4.3	1	1.7	1	1.6	2	12.5	1	1.4

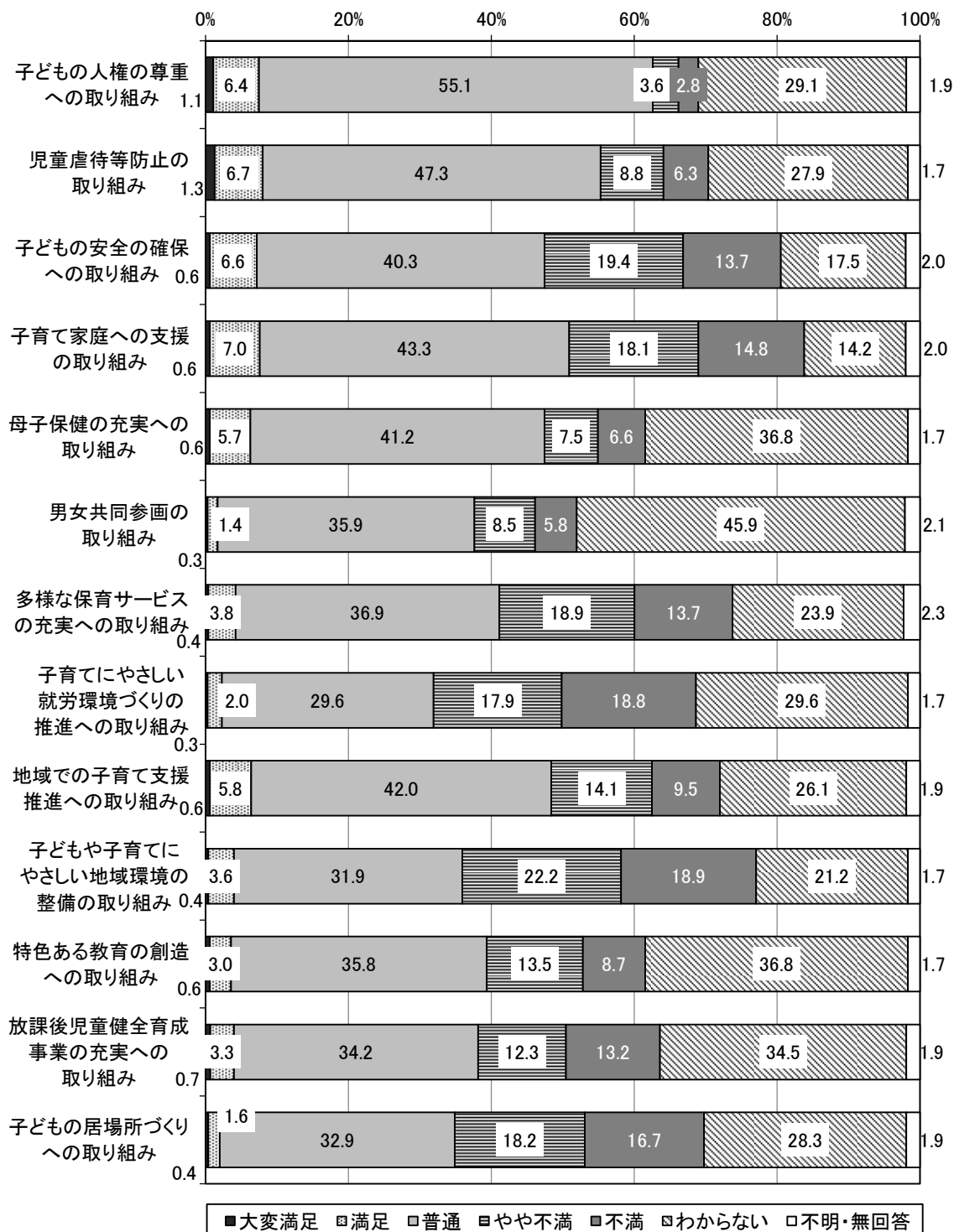
【就学前児童】 年齢別	片桐小学校 N=83		片桐西小学校 N=57		矢田南小学校 N=68	
	件数	%	件数	%	件数	%
	地域の交通安全活動の充実・強化	41	49.4	23	40.4	29
歩行者や自転車のための交通安全施設(ガードレール・歩道)の整備	47	56.6	34	59.6	36	52.9
地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み	35	42.2	25	43.9	41	60.3
公園の遊具や安全性の確保	6	7.2	4	7.0	4	5.9
不審者の進入防止など、学校の安全対策	25	30.1	17	29.8	18	26.5
通学路や子どもの遊び場の安全対策	40	48.2	27	47.4	27	39.7
犯罪にあいそうになった時の対応についての教育	22	26.5	21	36.8	19	27.9
その他	4	4.8	2	3.5	3	4.4
不明・無回答	2	2.4	1	1.8	3	4.4

(11) 行政の取り組みに対して感じること〈単数回答〉

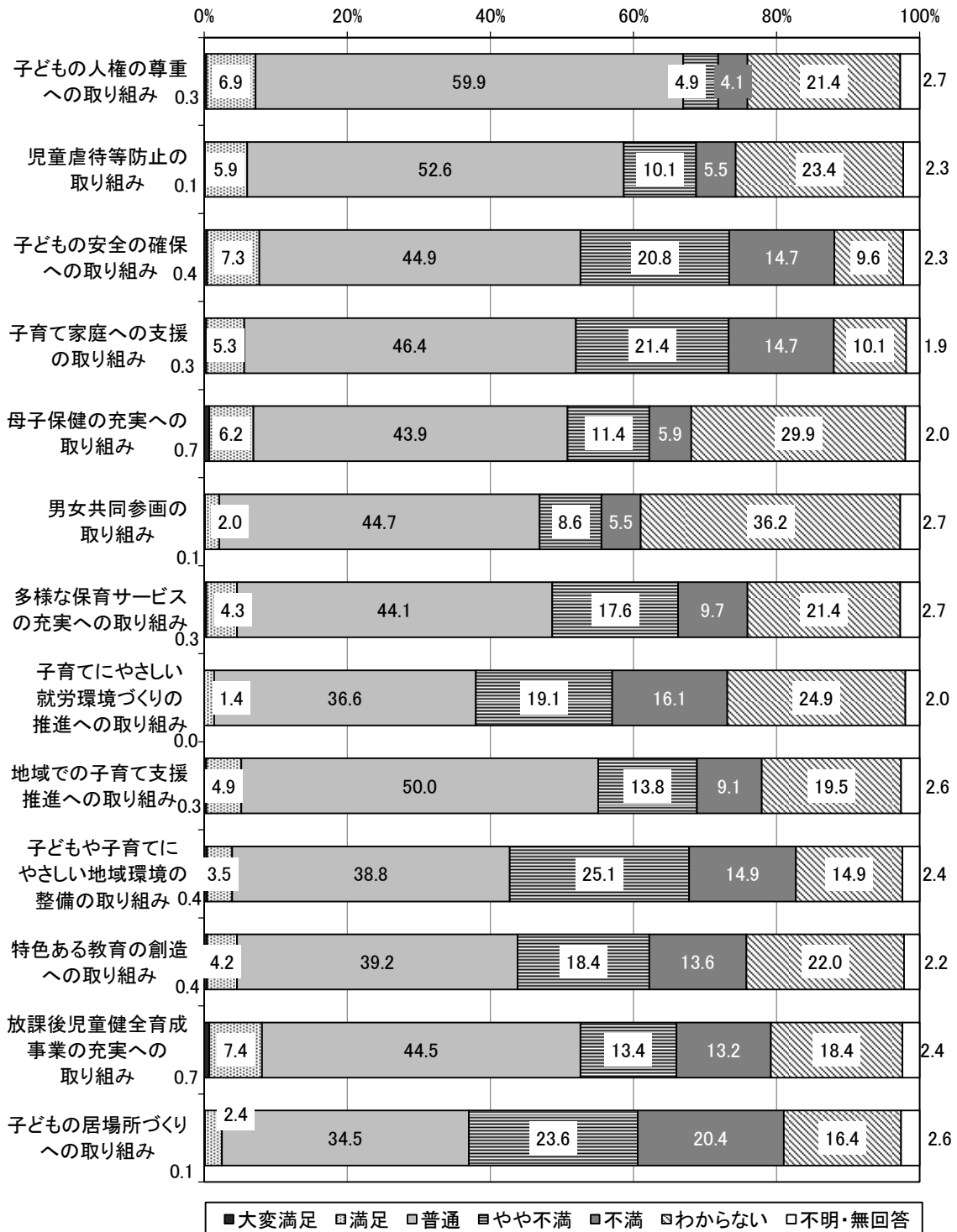
〔就学前児童調査…問 32、小学生児童調査…問 19〕

行政の取り組みに対して感じることについてみると、就学前児童では、『大変満足』『満足』を合わせた『満足』は「児童虐待等防止の取り組み」で8.0%と最も高く、次いで「子育て家庭への支援の取り組み」が7.6%となっています。小学生児童では、『大変満足』『満足』を合わせた『満足』は「放課後児童健全育成事業の充実への取り組み」で8.1%と最も高く、次いで「子どもの安全の確保への取り組み」が7.7%となっています。

就学前児童(N=702)



小学生 (N=740)



前回調査比較および評価：行政の取り組みに対して感じること

行政の取り組みに対して感じることを点数化し、評価すると以下のようになります。

今回調査で最も評価が高かったのは就学前児童、小学生児童ともに「①子どもの人権の尊重への取り組み」であり、前回調査とも同順位となっています。また、今回調査で最も評価が低かったのは、就学前児童で「⑧子育てにやさしい就労環境づくりの推進への取り組み」、小学生児童では「⑬子どもの居場所づくりへの取り組み」であり、前回調査とも同順位となっています。

※点数の算出方法：回答結果に対して「大変満足」+2、「満足」+1、「やや不満」-1、「不満」-2とし、平均得点を算出しました。（「普通」「わからない」「不明・無回答」は除く）

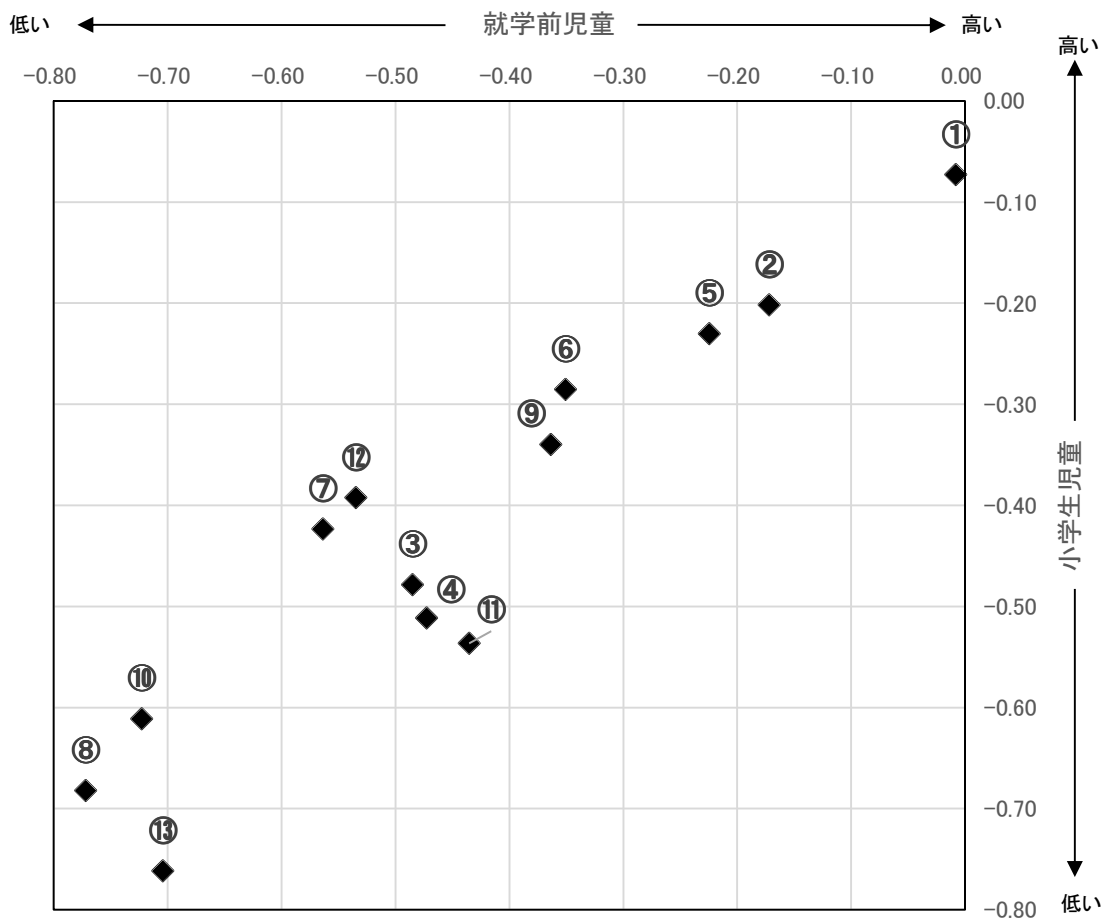
◎就学前児童

	行政の取り組み (次世代後期計画の体系)	今回調査		前回調査	
		点数	順位	点数	順位
子どもの最善の利益に配慮した環境づくりの推進	①子どもの人権の尊重への取り組み	-0.01	1	-0.10	1
	②児童虐待等防止の取り組み	-0.17	2	-0.24	2
	③子どもの安全の確保への取り組み	-0.48	8	-0.60	10
子育て・親育ちができる環境づくり	④子育て家庭への支援の取り組み	-0.47	7	-0.56	9
	⑤母子保健の充実への取り組み	-0.22	3	-0.26	3
	⑥男女共同参画の取り組み	-0.35	4	-0.30	4
子育てと仕事の両立	⑦多様な保育サービスの充実への取り組み	-0.56	10	-0.52	8
	⑧子育てにやさしい就労環境づくりの推進への取り組み	-0.77	13	-0.75	13
子どもや子育てにやさしい地域環境の整備	⑨地域での子育て支援推進への取り組み	-0.36	5	-0.30	4
	⑩子どもや子育てにやさしい地域環境の整備の取り組み	-0.72	12	-0.69	12
豊かな感性を育てる教育の推進	⑪特色ある教育の創造への取り組み	-0.44	6	-0.44	6
	⑫放課後児童健全育成事業の充実への取り組み	-0.53	9	-0.49	7
	⑬子どもの居場所づくりへの取り組み	-0.70	11	-0.63	11

◎小学生児童

	行政の取り組み (次世代後期計画の体系)	今回調査		前回調査	
		点数	順位	点数	順位
子どもの最善の利益に配慮した環境づくりの推進	①子どもの人権の尊重への取り組み	-0.07	1	-0.14	1
	②児童虐待等防止の取り組み	-0.20	2	-0.22	2
	③子どもの安全の確保への取り組み	-0.48	8	-0.57	7
子育て・親育ちができる環境づくり	④子育て家庭への支援の取り組み	-0.51	9	-0.67	9
	⑤母子保健の充実への取り組み	-0.23	3	-0.32	4
	⑥男女共同参画の取り組み	-0.29	4	-0.30	3
子育てと仕事の両立	⑦多様な保育サービスの充実への取り組み	-0.42	7	-0.51	7
	⑧子育てにやさしい就労環境づくりの推進への取り組み	-0.68	12	-0.70	12
子どもや子育てにやさしい地域環境の整備	⑨地域での子育て支援推進への取り組み	-0.34	5	-0.39	5
	⑩子どもや子育てにやさしい地域環境の整備の取り組み	-0.61	11	-0.68	11
豊かな感性を育てる教育の推進	⑪特色ある教育の創造への取り組み	-0.54	10	-0.57	9
	⑫放課後児童健全育成事業の充実への取り組み	-0.39	6	-0.48	6
	⑬子どもの居場所づくりへの取り組み	-0.76	13	-0.75	13

■就学前児童、小学生児童の評価の状況



- ①子どもの人権の尊重への取り組み
- ②児童虐待等防止の取り組み
- ③子どもの安全の確保への取り組み
- ④子育て家庭への支援の取り組み
- ⑤母子保健の充実への取り組み
- ⑥男女共同参画の取り組み
- ⑦多様な保育サービスの充実への取り組み
- ⑧子育てにやさしい就労環境づくりの推進への取り組み
- ⑨地域での子育て支援推進への取り組み
- ⑩子どもや子育てにやさしい地域環境の整備の取り組み
- ⑪特色ある教育の創造への取り組み
- ⑫放課後児童健全育成事業の充実への取り組み
- ⑬子どもの居場所づくりへの取り組み